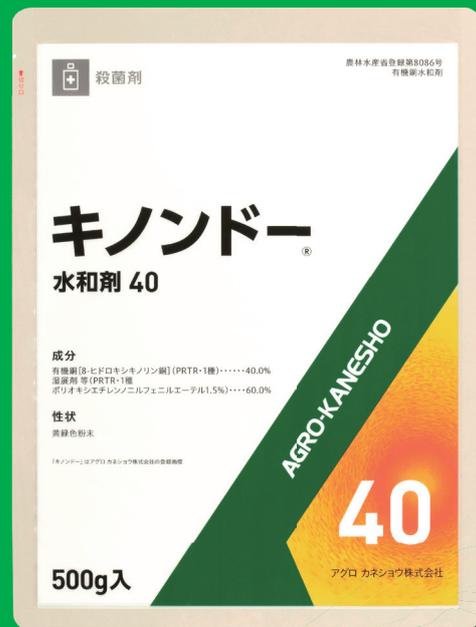


予防効果に優れる病気の基幹剤

キノンドー[®] 水和剤40

特長

- 糸状菌を含む幅広い病害に効果があり、予防効果に優れる基幹剤です。
- 耐性菌が生じにくい薬剤です。
- 無機銅にくらべ、薬害の心配が少なく、作物の生育、収量に好影響を与えます。



アグロ カネショウ株式会社

◎は、アグロ カネショウ(株)の登録商標

詳しい製品情報はHPでご確認いただけます。



キノンドー水和剤40

成分：有機銅・・・40.0%
FRAC：M1
毒性：-（毒劇物に該当しない）

■適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数 又は使用量	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	有機銅を含む農 薬の総使用回数
かき	炭疽病、うどんこ病、落葉病	500倍	200～700ℓ/10a	収穫14日前まで	5回以内	散布	8回以内（塗布は3回以内、散布は5回以内）
	黒斑病、黒星病	800～1000倍		収穫21日前まで			
なし	輪紋病	700～800倍	200～700ℓ/10a	発芽前～開花直前まで 但し、収穫60日前まで	5回以内	散布	8回以内（塗布は3回以内、散布は5回以内）
	縮葉病	500～800倍		発芽前～開花直前			
ネクタリン	黒点病	400～500倍	200～700ℓ/10a	収穫30日前まで	5回以内	散布	5回以内
	そうか病、黄斑病	500倍					
みかん	べと病、枝膨病	600倍	200～700ℓ/10a	収穫45日前まで	4回以内（開花後 は1回）	散布	7回以内（塗布は3回以内、散布は4回以内（但し、開花後は1回以内））
	黒とう病	600～800倍					
ほっぺ	べと病	600倍	100～300ℓ/10a		3回以内	散布	3回以内
メロン	べと病、炭疽病	800～1000倍	100～300ℓ/10a	収穫10日前まで	5回以内	散布	5回以内
	斑点細菌病	600～800倍					
すいか	果実汚斑細菌病	800倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内
	べと病、炭疽病	800～1000倍					
かぼちゃ	べと病、炭疽病	800～1000倍	100～300ℓ/10a	収穫30日前まで	5回以内	散布	5回以内
はくさい	軟腐病	800倍					
レタス	腐敗病	600～800倍	100～300ℓ/10a	収穫21日前まで	5回以内	散布	5回以内
	斑点細菌病、軟腐病、べと病	600倍					
やまのいも	葉萎病		100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	8回以内	散布	8回以内
こんにゃく	腐敗病、葉枯病	500～600倍					
キャベツ	黒腐病	500～800倍	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
ブロッコリー	黒腐病、黒斑細菌病	800倍					
たまねぎ	軟腐病	600倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内	散布	5回以内
きゅうり	斑点細菌病	600～800倍					
しそ	べと病、炭疽病	800～1000倍	0.5～1ℓ/m ²	根雪前	3回以内	株元散布	4回以内
	斑点病	1000倍					
芝	雪腐病	100～200倍	2～5mℓ/株	根雪前	4回以内	散布	5回以内
シクラメン	葉腐細菌病	5倍	3ℓ/m ²	発病初期	8回以内	葉柄基部散布	8回以内
せんりょう	立枯病	1000倍	100～500ℓ/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内
炭疽病	炭疽病	800倍					
麦類（小麦を除く）	雪腐病	200～400倍	100～200ℓ/10a	根雪前	2回以内	散布	2回以内
小麦	斑葉病、なまぐさ黒穂病	10倍	-	は種前	1回	20分～1時間種子浸漬	5回以内（種子への 処理は1回以内）
		100倍				6～12時間種子浸漬	
		乾燥種子重量の 0.5%				種子粉衣	
まつ	葉ふるい病	500倍	200～700ℓ/10a	生育期	4回以内	散布	4回以内

令和8年3月18日現在

⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 石灰硫黄合剤、水和硫黄剤等との混用はさけてください。
- 本剤は病害の多発時の使用では効果が劣る場合があるので病害の発生が多くならないうちに発生初期から1～2週間おきに予防的に散布してください。
- もも及びネクタリンの縮葉病防除に使用する場合には、発芽直前及び開花直前にかけむらのないように樹全体に十分散布してください（休眠期散布）。展葉後は葉害のおそれがあるので散布しないでください。
- ぶどうのべと病に対しては、多発時には効果が不十分な場合もあるので、なるべく発生初期に予防的に散布してください。なお、ぶどうでは果実肥大期（あすき粒大）以降の散布は、サビ果や果房の汚れを生じるおそれがあるので、無袋栽培ではこの時期以降の散布はさけてください。
- はくさいたまねぎの軟腐病、レタスの軟腐病・腐敗病・斑点細菌病、きゅうり・メロンの斑点細菌病、キャベツ・ブロッコリーの黒腐病、こんにゃくの腐敗病・葉枯病、シクラメンの葉腐細菌病などの細菌性病害防除に使用する場合は、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布してください。
- せんりょうの炭疽病防除に使用する場合は、着果数が減少するおそれがあるので、開花時期の散布はさけてください。また、薬剤による汚れが残るおそれがあるので、出荷間際には使用しないでください。
- きゅうりに使用する場合は、収穫間際の散布では果実に汚れを生じることがあるので注意してください。
- しその斑点病に使用する場合は、薬液による汚れが生じるので、葉にかからないように株元に散布してください。
- うり類に対する薬害は無機銅剤に比べて少ないが、なお幼苗期・高温時には注意して散布し、過度の連用はさけてください。
- シクラメンの葉腐細菌病に使用する場合は、薬液による汚れが生じるので、葉及び花弁にかからないように注意してください。

- 麦の雪腐病の防除に使用する場合は、なるべく根雪近くの晴天の日を選んで10アール当たり100～200ℓを散布してください。
- 小麦の種子消毒に使用する場合は
 - ① 種子浸漬処理の場合は浸漬後、水洗いせずに風乾してから播種してください。
 - ② 種子粉衣処理の場合は播種前に適当な容器の中で本剤の所定量が均一に乾燥種子につくように少量ずつついでにまがしてください。
- 芝の雪腐病防除には、葉量として平方メートル当たり5gをなるべく根雪近くに散布してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意

- 誤飲、誤食などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長スポン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗顔してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意してください。

魚毒性…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷凍・乾燥した所に保管してください。

● 使用前にラベルをよく読む ● ラベルの記載以外には使用しない ● 小児の手の届く所には置かない